

2022 年度環境アレルギー分科会活動報告書

平久美子¹⁾ 山野裕美²⁾ 野崎淳夫³⁾ 吉野博⁴⁾

1) 東京女子医科大学附属足立医療センター麻酔科 2) 東京環境アレルギー研究所

3) 東北文化学園大学工学部 4) 東北大学名誉教授

Annual Activity Report from Environmental Allergies Subcommittee

Taira Kumiko¹⁾, Yamano Hiromi²⁾, Nozaki Atsuo³⁾, Yoshino Hiroshi⁴⁾

1) Department of Anesthesiology, Tokyo Women's Medical University Medical Center East,

2) Institute of Tokyo Environmental Allergy,

3) 3) Department of Architectural Environment, Tohoku Bunka Gakuen University,

4) Professor Emeritus, Tohoku University

1. 概要

2022年4月から2023年3月までに、当分科会の会合は計7回開催された。昨年度と同様、すべてZOOMを用いたWEB形式で行った。毎回、分科会会員による各専門分野の情報提供と活発な質疑応答がなされ、その都度論文形式の抄録を作成した。2022年6月の第30回日本臨床環境医学会学術集会では、前年度の活動報告とともに、2021年11月に学会誌「臨床環境医学」のホームページ上に公開した分科会活動報告書「環境アレルギー問題の現状と課題」を印刷製本し学術集会参加者に配布した。昨年度から開始した一般向けの住環境のアレルギー対策に関する本の出版企画（以後企画）は、株式会社技報堂出版の協力を得て順調に進行し、分科会全体で執筆を分担し、各原稿について分科会会合において質疑応答による内容の検討を行い、2023年3月末には第2校原稿が作成された。

2. 分科会メンバー（*今年度入会）

医学分野：谷口正実（湘南鎌倉総合病院臨床研究センター）、渡井健太郎（国立病院機構相模原病院臨床研究センター呼吸器アレルギー科）、角田和彦（かくたこども&アレルギークリニック）、阪口雅弘（東京環境アレルギー研究所）、白井秀治（環境アレルギー info and care 株式会社）、高岡正敏（（株）ペスト マネジメント ラボ）、東賢一（近畿大学）、高野裕久（京都大学）、釣木澤尚実（平塚市民病院アレルギー内科）、高鳥浩介（NPO カビ相談センター）、平久美子（東京女子医科大学東医療センター麻酔科、代表）

物理・化学分野：関根嘉香（東海大）、高橋久美子・成田泰章（暮らしの科学研究所）、篠原直秀（産業技術総合研究所）

建築分野：吉野博（東北大学）、池田耕一（日本大学）、野崎淳夫（東北文化学園大学大学院、副代表）、一條祐介・二科妃里（東北文化学園大学大学院）、鍵直樹（東京工業大学）、柳宇（工学院大学）、長谷川兼一（秋田県立大学）、三田村輝章（前橋工科大学）、金勲（国立保健医療科学院）、林基哉（北海道大学）、長谷川麻子（宮城学院女子大学）、山野裕美（東京環境アレルギー研究所、幹事）

3. 今年度の研究テーマと検討内容

前年に引き続き、環境アレルゲンと環境アレルギーの増悪因子について各専門分野の講師を招聘し情報収集を行うとともに、企画の原稿についての検討を行った。各内容と講師名(敬称略)は以下の通り。

2022.4.6. 出版原稿：仮設住宅における真菌と温熱環境;帰還困難区域の住宅におけるハウスダスト中のダニ・カビ・エンドトキシン(篠原直秀)、ダニの種類と特性;ダニの実態と環境整備;ペットアレルゲン(阪口雅弘)、有害な化学物質から体を守るための防衛反応;ウレタン樹脂の健康影響(角田和彦)、室内環境アレルゲンの動態(鍵直樹)、住環境変化と高齢者のダニアレルゲン感作;小児アレルギー疾患に対する環境整備介入効果の検証(釣木澤尚実)

2022.5.20. 出版原稿：換気について(林基哉)、アレルギーと衛生仮説に関して(金勲)

2022.6.21. 出版計画の進捗状況について

2022.7.22. 講義:動物における自然発症アレルギー(阪口雅弘)、出版原稿：アレルギー疾患の疫学(平久美子)

2022.9.2. 講義:ダニとアレルギーの話(高岡正敏)、新型コロナウイルス対策としての換気に関する情報(林基哉)、

2022.10.21. 講義：「アレルギー性喘息および急性肺傷害モデルマウスの病態形成における低濃度室内揮発性有機化合物の関与」および、ケミカルフィルタによる清浄空気(清水建設株式会社技術研究所 富田先生)、出版原稿：アレルギー疾患の診断、アレルギーと化学物質過敏症、室内環境アレルギーの治療法(渡井健太郎)

2022.11.25. 講義：環境面から見たアレルギー診療に残された課題①アスペルギルス②ハンノキの花粉症③アニサキスアレルギー(渡井健太郎)

2023.1.25. 講義：これまでの空気質に関する研究(長谷川麻子)、

2023.3.17. 講義：エビアレルゲンの分析とその応用について(ITEA 東京アレルギー研究所 宮澤博先生)

4. 会計報告

<収入の部>

前年度からの繰越金 50,000 円

日本臨床環境医学会様より 50,000 円

<支出の部>

分科会活動報告書「環境アレルギー問題の現状と課題」80部 印刷代 66,165 円

残金 33,835 円は 2023 年度への繰越金とした。

5. 次年度以降の取り組み

引き続き各委員どうしの情報交換を行うとともに、外部講師招聘による情報収集にも努め、アレルギー疾患を予防改善するための室内環境の改善案について、各対策のリストと推奨度を検討する。また、公衆衛生や建築関係の学生、実務者、および臨床現場でアレルギー患者の生活指導に携わる医療従事者のために、最新の知見をもとに室内環境アレルギーの概念と各アレルゲンの特徴と対策が簡潔に記載された本格的な教科書を 2023 年 5 月下旬に技報堂出版より出版する予定である。以上